

# なごみつうしん

発行日：平成 30 年 10 月 22 日(第 46 号)

発行：島田療育センターはちおうじ

日本は、知的障害の子どもたちを精神薄弱と言っていました。現在は、差別用語となり、使われなくなっていますが、その結果、今まで先人が積み上げてきたやり方も全く伝えられなくなっていました。島田療育園初代園長の小林提樹先生は、「両親の集い」という会誌を毎月発行し、全国に届けていました。

その中の文章を紹介します。

(今では、差別的用語として使われない用語も、時代的背景を伝えるために、そのまま使用しています。)

所長 小沢 浩

## — 精薄は私です —

雲は白いんです。  
空は下りて来ます。

形を、色を、冷たさを変えて、  
どこにでも、積ります。

私は、白いんですが  
積もらないんです。



自然を敏感に反応するのは、此の子供達の特質といってもいいと思う。人は言うかもしれない。動作を見ていると「ハガユイ」と、そうかもしれないが、子供にして見れば、精一杯に動いているのです。又、この子供ら程自分の力を、能力を、充分表現できる子供も少ないのではないだろうか。自分の思っていることがとりもなおさず行動に表現されるのです。

だからこの子供らはそれぞれの体質に応じて、あるがままに育てることが必要なのです。弱い存在ですから……。頼るところがなければ、成長はできません。ですから、母親の立場は、もっとも重要です。子供の発育状態に即して、しっかりと位置を守護することです。この為には、

子供の中から、出来そうなことを引き出すようにしてやるのです。子供にただ接するだけでなく、即ち自分は、親だ、先生だ、という考えを持っている間は、駄目なのです。子供よりも低い所に居て、子供に教えられて糧にするのです。

子供から受ける愛、これを感じるだけでなく、応ぜられる人がどれだけいるだろうか。

子供はこんなことを私に言いました。

「ぼくは、家に居ないほうがいいのだね」と、又両親とは、恐ろしいものだ、と思っている子。両親よりも、兄弟、姉妹のことを「何しているかなあ」と心配する子。どんなに叱られても、反抗しない子。花や、虫、動物と話しする子……。私は胸が一杯になり思わず抱きしめてしまうんです。なんどもやさしい子供の行為に、涙したかわかりません。私にこの子供達の万分の一でも、自然に対する敏感さが欲しいと思います。

精薄は、子供でなく私なのです。経験もあり知識ある皆さんは教えてください。見てください。

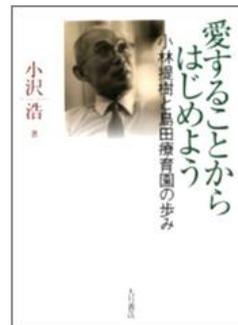


すやすやと、  
笑みを浮かべて、夢を見る  
涙ながして、  
我がひざを見つ

木をはなれ、  
人にふまれて、生きるのは、  
赤い手をした  
もみじなりけり  
(精母)



『愛することからはじめよう』  
小林提樹と島田療育園の歩み



小沢 浩 著  
より引用

大月書店より  
発売中